挑む企業

アイデンス　大阪市

歯科カルテ　入力簡単に

歯科医院の電子カルテや、医療機関が保険者に医療費を請求する際に必要なレセプト（診療報酬明細書）などを作成するシステムを提供している。内科などと違い、治療作業をしながらカルテを書くのが難しい歯科医師の要望に応え、独自の使いやすいシステムが人気だ。

中田俊社長(65)は1990年代、医療機器関連会社に勤務していた時に、入力したカルテのデータを基にレセプトを自動的に作るシステムを考案した。治療の過程や健康保険制度などを熟知しており、2000年にアイデンスを設立後、その経験や知識を開発に役立てている。

歯科医は治療中、手を常に動かしており、カルテの記録は後回しになってしまう。最新の電子システムでは医師が自らの施術パターンを登録しておくと、前回治療時に行った処置の内容や患者の症状をもとに、今回行うべき処置が一覧表示される。わずかなプロセスで簡単にカルテの入力ができる仕組みだ。

また、マウスのポインターは次にクリックすべきボタンの上まで自動的に移動する。操作の手間が省け、カルテを効率的に作成できる。書類作成のストレスが軽減し、治療に専念できる環境が整ったと好評だ。このシステムはこれまで培った高度な技術の結晶だといい、業界内でのシェア（市場占有率）はまだ3％程度だが、「大学病院クラスの規模でも対応できる」と胸を張る。

大阪中小企業投資育成の紀本圭一郎・業務第1グループ課長は「製品の信頼性と使いやすさで、顧客のリピート率が際立って高い」と太鼓判を押す。

レセプトのオンライン請求の義務化を前に、カルテの電子化は医療機関の大きな課題だ。中田社長は「患者が適切な歯科治療を受ければ、国の医療費の総額を抑えられる。我々はそのお手伝いをしたい」と力を込める。

（中根靖明）

歯科医院用のシステムの使い勝手にこだわった中田俊社長（大阪市中央区で）＝奥村宗洋撮影

資本金	9000万円
売上高	9億円
従業員数	51人
創業	2000年

読売新聞は地域経済を応援します